

「即興スピーチ」

「即興スピーチ」とは

事前の通知も作成もなしに、直接質問されたり、意見や情報を求められ即座に答えなければならない時に、とっさにするスピーチ。

即興スピーチは自分の考えをすばやく選択し、その考えを簡潔に述べ、そこから要点を引き出して締め括る。

スピーカーは自分の知識や経験の積み重ねに頼るしかない。

目的：前もって準備なしに素早く考えをまとめ効果的に話すこと。

利点：立ち上がって素早く考える事が学べ、構想を短時間にまとめられるようになること。

「即興スピーチに大切なことは」

- ・ 話題を選ぶ→論題としてどんな素材を選ぶか。
- ・ 主題の形成→聴衆に分かってほしいと思うことを正確に伝えるために要旨をどのように言い表すか
- ・ 特定目的の決定→聴衆にどのような反応を求めているのか考える。
- ・ 聴衆及び状況の分析→聴衆はどのようなひとか。どのような状況でスピーチをするのか。

「スピーチを組み立てるための素材の選び方」について

どんな素材を探せばよいかを知る鍵は主題にある。

主題とは、自分が最も言いたいこと、スピーチのコアになる考えのことである。

主題を明確化し強調し立証するために、素材＝[言葉による裏付け]が使われる。

[言葉による裏付け]には次のような形がある。

- ・ たとえ
- ・ 統計
- ・ 説明又は描写
- ・ こじつけ又は比較
- ・ 証言又は引用
- ・ 逸話
- ・ 実例
- ・ 繰り返し
- ・ 定義

どんな種類の裏付けをいくつ使うかは選ばれた論題とスピーチの割り当て時間によって違ってくる。

「スピーチの構成」

時間的に短いスピーチでもスピーチの構成には導入 本論 結論が必要となる。

「本論」は主題と裏付け素材で構成され、話しの内容を理解してもらうために重要なものとなる。

話したい内容が分かっていないと導入部分を作ることはむずかしいので、「導入」よりも「結論」を先に作る事が好まれる。

「結論」はスピーチの主題に焦点を合わせなければならない。

「導入」について

スピーチの出だしの言葉は最も重要で、スピーチ全体の舞台設定となる。

スピーチの「導入」には以下の4つの目的がある。

1. 話に好意的な関心や好奇心をもたせる。
2. 話し手に対して好意をもたせる。
3. 話し手を信頼させ、安心して聞けるようにする。
4. 本論への道を整える。

“導入でやってはならないこと”

- ・ はっきりしない
- ・ 言い訳をする
- ・ 無関係の材料で聴衆を誤った方向に導く

「導入」を考えるに当たっては、どこで主題を述べるかを決める必要がある。ふつうは「導入」と「本論」の間で述べるのが最も効果的。

主題を述べる潮時は、その時々状況を考えて判断する。

「導入」の目的を思い出しながら、よりよいスピーチの始め方を考える。

「結論」について

「結論」は新しい論点を持ち出したり、主題の局面を指摘したりしてはならない。

「結論」に入ったことが聴取に分かるように次のことに注意する。

- ・話の筋や話し方に自然な切れ目を持たせる。
- ・各論点を要約して一つにまとめ始める。
- ・今までの話から論点を引き出す。

「結論」は他の部分と一貫していなければならない。

一般に「結論」には全体の5%を当てる。

最後の「結論」の部分が聴衆の記憶に残りやすいので、スピーチの焦点を絞って主題を浮き立たせ、効果的な「結論」を作る。

“結論でやってはならないこと”

- ・突然やめる（私の言いたかったことはこれだけです）
- ・言い訳をする（退屈では無かったですでしょうか）
- ・「終わりに」と言ってから、長々と話す。
- ・無関係な話しや冗談を持ち出す
- ・次から次へと結論を述べる

“効果的な結論”

- ・話を要約する
- ・主題に言及する
- ・話を最高潮に持っていき、効果的に終わる

まとめ

- ・恐れることなく即興スピーチの挑戦を受け入れる。
- ・適切な考えを簡潔にまとめ聴衆に伝える。
- ・過去の経験や知識に基づいて話す。
- ・自身の基礎環境や今日の話題の訓練を思い起こして簡単に手際よく整理し、短いスピーチに構成して発表する。
- ・そして自分自身が楽しむ。
発表する際、自分の話は価値のあるものだと自覚して自身を持って話す。

インターネット参照
ITC マニュアルより抜粋

ひろしまクラブ 谷本美寿子